

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0172901290		
法人名	株式会社 三樹会		
事業所名	グループホーム ゆうゆうの家		
所在地	旭川市豊岡8条2丁目1-8 (電話) 0166-33-5577		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年10月17日	評価確定日	平成20年11月7日

【情報提供票より】 (20年 9月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年 5月 13日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤16人 非常勤 7人 常勤換算16.3人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨ブロック	造り
	2階建ての	1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円		その他の経費(月額)	水光熱費 6,000 円
				暖房費(10~4月)8,400円
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	200 円
	夕食	200 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (9月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	7 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.7 歳	最低	70 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	整形外科進藤病院 菅野歯科医院 あおぞらクリニック
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの一番の特徴は家族と管理者始め職員が信頼という強固な絆で結ばれていることです。ホームでは、介護度が高い利用者が多く暮らしていますが、「寝たきりを作らない」とのホーム方針は、職員全員が共有しており、適切な介護によりゆったりとした雰囲気が感じられます。また、訪問リハビリも積極的に取り入れるなど、これまでに見られない体調の変化に家族から安心と感謝の言葉が多く寄せられています。職員のスキルアップには特に力を入れており、外部での研修会や講演会には積極的に参加しており、資格取得のためのシフト替えなど、ホームとしての対応が際立っています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議の内容改善では、自己評価や外部評価の公表と改善への取り組みの検討や災害対策で地域住民の協力体制の構築など、今後に残された対応への取り組みが期待されます。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価作成に当たっては、職員全員が自ら気づきの項目をチェックしながら作成されたもので、日頃のサービスの提供について新たな反省も生まれています。今後は自己評価の気づきに加えて、外部評価での取り組みにも前向きな姿勢が見られます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議の内容は、主に報告事項が多く、ホームサイドの提案などは少なくマンネリ化の傾向が伺えます。今後はメンバーもテーマに沿った方々を迎えるなど、柔軟なメンバーによる幅広い討議が期待されます。また、自己評価や外部評価での改善を目指した取り組みの状況も会議の中で公表しながら、モニター役を担っていただくなど、地域に密着したグループホーム運営に反映させるとともにサービスの質の向上に寄与されるよう期待されます。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居時に家族の方々との協議で、毎月の利用料金などは振込みを利用せず、必ず毎月定期的にホームへ持参していただくことになっており、家族の訪問が途切れることはなく、管理者及び職員を交えた話し合いで意見や要望の聴取、家族の抱く不安などの解消に役立っています。意見、要望、苦情などがあった場合は、早期に解消への対応を行ない、ホーム運営に反映するようになっています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	町内会の行事であるラジオ体操や盆踊り、花火大会など利用者の状況を配慮しながら参加し、地域の方々との交流を図っています。近くのコンビニエンス・ストアは、利用者の様子をよく理解していただくなど協力の絆もできています。今後は近隣の小学校や保育所の生徒、園児との交流の機会も考慮しながら、地域との連携を深める取り組みを検討しています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中にあって人として生きる日々を大切にしよう」との理念の下、人として生きている素晴らしさを実感できるサービスの追及を日々実践しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は、ロビー、来客用の応接室、職員休憩室などに掲示され、管理者及び職員、来訪時の家族の方々にも語りかけるなど、理念の共有は繰り返し行なわれてサービスの質の向上を目指しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会のラジオ体操や盆踊りなど、地域の行事にはできるだけ参加し、地域住民の方々とのふれあいを大切にしています。今後は利用者の状況を見ながら小学生、幼稚園児との交流も検討して触れ合いを深めたいと考えています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、スタッフ全員が日常での気づきなどをもとに作成しています。また、外部評価での取り組み事項を基礎として、家族の方々からいただいた意見なども十分取り入れながら、具体的な取り組みに努めています。		

旭川市 グループホーム ゆうゆうの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容は、報告事項が主となり、また、出席されるメンバーも固定化が目立つなど、マンネリ化の傾向が伺えます。	○	会議のメンバーとしては、町内会の婦人部、商店会代表、医師、警察官、消防士、教員など、協議事項に沿った柔軟なメンバーにより幅広い話し合いが求められます。また、評価への取り組みのモニター、さらには災害時の地域協力など、協議内容の充実への取り組みを期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、ホーム運営上の不明点の照会やホームの空き情報など、頻繁に行ないながら、サービスの質の向上に役立てています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の方々には、毎月ホーム来訪をお願いしながら、利用者の暮らしぶりや健康状態、また金銭管理の報告を欠かさずに行なうなど、家族とのコミュニケーションに力を入れています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方々が要望や意見を忌憚なく話せるような関係作りが構築されており、管理者及び職員は深刻な問題に至らない前の解決に努めています。意見箱の設置もありますが投函はなく、専ら家族の方々との会話の中で意見や要望をいただきながら、運営に反映するようにしています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員都合での退職はあるものの、最近では定着率が高まっています。ホーム長や管理者は職員間の交流を多く取り入れ、また、新職員は利用者及びホーム運営に馴染むまで、予備人員としてシフトしながら、利用者への影響を最小限に抑える配慮がされています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市内及び道内で開催される研修会などには、職員の経験年数や資格取得を考慮しながら参加して、スキルアップに努めています。また、グループホームの全国大会などにも希望に応じ、出席できるよう勤務シフトの調整を行なうなど配慮がされています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長は地域のグループホーム協議会の役員を務めながら、管理者及び職員の地域交流や相互訪問などの企画立案をし、積極的に推進、実践しながらサービスの質の向上に向けた取り組みを行なっています。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、必要に応じて管理者や職員が自宅などを訪問し、顔見知りの関係作りに努めています。また、家族の方々から生活歴や要望、利用者の趣向、性格などの情報をいただきながら、ホームの暮らしに馴染めるよう工夫を凝らしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者には、常に人生の先輩であることの認識と尊敬の念を持って接しながら、ともに喜び合い、支え合う関係作りに努めています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護度が高い利用者が多い中で、利用者一人ひとりの思いや暮らしの希望、意向を把握できるスキルの習得に努めています。身体的な状況を考慮した試行を重ねながら、少しでも自信を持って暮らしていただけるよう支援を行なっています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人がより良い暮らしが継続できるよう、利用者、家族、管理者、職員、介護支援専門員、常勤の看護師が意見交換をしながら、介護計画の作成を行なっています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	効果的な計画によるサービスの提供ができるよう、定期的なモニタリングを行ないながら、介護計画の見直しが行なわれています。また、状況の変化には特に配慮がされ、対応可能な見直しも随時行なわれています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況により、病院への通院、入退院の付き添いや送迎を行なうほか、訪問リハビリ、かかりつけ医との情報交換など、ホームの持つ多機能性を活かした支援が行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の受診については、ホームでの情報を提供しながら、円滑に受診と治療ができるよう支援しています。また、ホームの看護師が医療機関との連携を取り、適切な支援が行なわれています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームに入居する際には、利用者、家族に対して終末期における方針をよく説明して、納得いただいています。ホームとしては、希望により最期まで看取することを前提としており、重度化や終末期にあつては、利用者、家族、医師、管理者及び職員が方針を共有しながら対応しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を大切に、特にプライバシーの確保には職員全員が遺漏なきよう努めています。職員の言葉づかい、行動などの気づきを早期に改めるなど、徹底した対応がされています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にしながら、その人らしい暮らしができるよう支援しています。意思表示が困難な利用者は、家族の協力をいただくほか、利用者の表情、顔色、態度などで読み取り、希望に沿った支援をしています。		

旭川市 グループホーム ゆうゆうの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介護度が高い利用者が多いため、食事の用意や下膳などは困難のようです。テーブル上でのジャガイモの皮むき、もやしの芽とりなどの調理の下拵えなど、できることは努めて作業していただくようにしています。職員は利用者とともに食事に関わる会話を交わしながら、楽しい食事を演出しています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週4日の入浴日を設定しており、できるだけゆったりとした時間帯で楽しんでもらうよう支援しています。現在、夜間の入浴を希望する利用者はいませんが、希望があった場合は、対応できるよう配慮されています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者一人ひとりができることを大切に支援しています。雑巾縫い、花の水遣り、天気予報、折込チラシの特売品を見つけるなど、利用者にとっての楽しみごと、気晴らしの事柄を見つけだしながら支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の散歩、買物、通院のほか、目的が無くても外出したい時には、職員のシフトを変えながら、対応できるよう配慮しています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上、玄関の施錠は深夜のみ行なわれていますが、それ以外は一切鍵をかけないホームの運営がされています。最近、ほかのグループホームでの事故を教訓に、玄関のセンサーを増設して、出入りがさり気なく把握できるよう工夫されています。		

旭川市 グループホーム ゆうゆうの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の災害時の避難訓練が行なわれており、ホームに隣接した法人役員の住宅があるなど、緊急時のマニュアルはあるものの、夜間想定での避難訓練や災害時の近隣住民の方々の協力体制が確立されていません。	○	法人役員の住宅が隣接されているとはいえ、人手が少なくなる夜間想定での避難訓練は必要であり、また、近隣住民の方々の協力も不可欠であることから、運営推進会議などでの協力体制確立への取り組みを期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の摂取量は利用者によって相違があることから、一人ひとりの目標を設定しながら、適切な摂取の支援をしています。また、栄養士の資格を持つ職員や調理専属の職員による栄養摂取の適正化が図られています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたロビー、利用者の状況に合わせたユニットごとで異なるソファの設置、1日3回の清掃による清潔なトイレ、鉢植えされた花々など、生活感に満ちた居心地の良い空間で、利用者は安心の暮らしが支援されています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム開設からの年月の中で暮らす利用者が多く、居室にはそれぞれ持ち込まれたベッド、寝具類、整理タンス、テレビなど、たくさんの生活用品の中で、居心地良く過ごせる空間となっています。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。